

塔和子文学碑

西予市

西予市明浜町^{おおそうづ}大早津と田之浜^{おおさきばな}大崎鼻公園に詩人・塔和子さんの文学碑が建立されている。

昭和4（1929）年に明浜町^{いづち}田之浜地区に生まれた塔和子（本名：井土ヤツ子）さんは、ハンセン病により昭和18年（1943）年、香川県高松市の大島青松園に隔離された。家族や世間との絆を断ち切れ、完治してもなお社会への復帰を許されないという厳しい差別の中、後に



文学碑「胸の泉に」

夫となる歌人・赤沢正美さんに出会い、24歳頃から短歌・詩の創作活動を始め。その絶望的な現実を命や愛、ふるさとへの思いを込めた詩を作ることによって乗り越え、自身の生きた証として19冊の詩集を発表、平成11（1999）年には、その年の最優秀詩集に贈られる高見順賞に輝いた。

塔和子文学碑の建立は、平成18（2006）年に塔さんの詩の熱心な読者であり、支援者代表を務める川崎正明さんから、「塔さんの文学碑をぜひ明浜に建立してほしい」という一通の請願書が西予市教育委員会に届いたことから始まる。

請願書を受けて、西予市は塔和子詩碑建立実行委員会を立ち上げ、塔さんの業績とハンセン病について学ぶ学習会を市内で開催。市民一人一人が主体的にこの問題に関わるためにも、文学碑建立にかかる費用は善意によるものにしようと寄付金を呼びかけたところ、協力者の総数は延べ1万人以上となり、当初1基の予定だった文学碑は2基建立されることとなった。平成19（2007）年に明浜町大早津に代表作「胸の泉に」の文学碑が完成、翌年大崎鼻公園に「ふるさと」の文学碑が完成した。

平成19（2007）年、塔さんは文学碑建立除幕式のため約50年ぶりの帰郷を果たした。生誕地である田之浜では、幼なじみや地区住民ら200人が出迎え、歓迎した。文学碑の除幕式では地元明浜中学校の全生徒90人が「塔さんお帰りなさい」と書かれた横断幕を持って歓迎しただけでなく、市内外から250人を超える協力者も駆け付け、その全員が「ふるさと」を合唱して塔さんを迎え入れた。

平成25（2013）年に大島青松園で亡くなった塔さん（満83歳）の遺骨は、園内の納骨堂におさめられたが、平成26（2014）年に分骨され、両親が眠る田之浜の墓に納骨された。墓誌には、本名が刻まれている。

〔参考資料〕

西予市 「広報せいよ平成25（2013）年12月号」

塔和子詩碑建立実行委員会委員長増田昭宏氏 講演「塔さんのふるさとに生まれて」

塔和子 『未知なる知者よ』

塔和子 『塔和子全詩集』